

最優良賞

「根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会」

～ 優良衛生品質管理市場・漁港認定に向けた取組 ～

【協議会の概要】

「根室地域（歯舞地区）マリンビジョン協議会」は、地域水産物のブランド化を図り、水産業はもとより地域経済や社会の活性化を目指しています。

特に、歯舞産水産物のブランド化を中心テーマに位置付け、ブランド化への取組を通じた漁業振興による地域の活性化に向けて地域関係者が一体となって取り組み、活気のある漁村地域づくりを目指しています。

【取組概要と選定理由】

歯舞地域では、直轄特定漁港漁場整備事業による人工地盤と歯舞漁協事業により高度品質・衛生管理型の水産物荷捌施設が完成し、一体的に機能が発揮されることで品質・衛生管理体制が強化されています。これらに伴い、北海道初の優良衛生品質管理市場・漁港認定の取得に向けて、市場関係者を対象とした HACCP 関連の衛生管理講習会や漁業者向けの市場説明会、認定に向けた現地指導、衛生管理用のタイヤ洗浄マット試験を実施し論文発表する等、産地市場の品質・衛生管理の向上に向けて意欲的な取組を行い、歯舞産水産物の付加価値化やブランド化を推進しています。

この取組は、ハード・ソフト対策が一体となった衛生管理に関する取組であり、先駆性や取組体制、情報発信に関して高く評価され、北海道のみならず、全国の漁村のモデルとなる取組として、最優良賞に選定されました。



完成した高度品質・衛生管理型の
水産物荷捌施設



衛生管理講習会の様子

優良賞

「ウトロ地域マリンビジョン協議会」

～ 鮭のまちPR活動 ～

【協議会の概要】

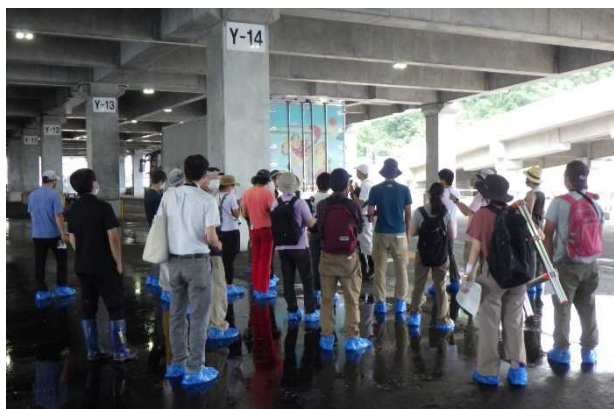
「ウトロ地域マリンビジョン協議会」は、二大産業である漁業と観光業の多様な連携による相乗効果と、ウトロ漁港を中心とする基盤施設等を有効に活用することで、地域・社会経済の活性化を目指しています。

また、漁業の生産増大や漁業の観光資源化、連携基盤整備と利活用を3つの柱として「漁業と観光の連携」を目指しています。

【取組概要と選定理由】

ウトロ地域では、知床の知名度や水揚見学が可能な漁港、鮭の遡上観察が出来る河川等を活かして、漁港と鮭の観光資源化、さらに鮭の地域ブランド化を目指し「鮭、日本一のまち」のPRに継続的に取り組んでいます。令和4年にはこれまでの取組に加え、「学ぶ」ということに重点を置き、「ウトロ鮭テラス」の大掃除に合わせた勉強会や、ウトロ漁港から直送された鮭料理を近隣ホテルで提供する「鮭を知り、鮭から学ぶ。知床鮭ウィーク」の開催、ペレケ川等での鮭の生態・環境問題等について学ぶSHIRETOKO SALMON STUDY、テレワーカー・ワーケーションを対象とした鮭遡上見学会等を実施し、メディアにも取り上げられるなど鮭のまちとしてのPRを強化しています。

この取組は、漁港施設の観光への活用、地域資源の情報発信の模範となる取組であり、取組体制や情報発信に関して高く評価され、優良賞に選定されました。



ウトロ鮭テラス勉強会 (R2)



鮭遡上見学会

優良賞

「積丹地域マリンビジョン協議会」

～ ウニと藻場の循環型再生産システム ～

【協議会の概要】

「積丹地域マリンビジョン協議会」は、道内有数の観光地が持つポテンシャルと、これまで町内で取り組んできた環境保全・文化伝承等の成果を踏まえ、漁港の活用とその周辺における新たな交流拠点整備を通じて、地域産業の連携・協働により雇用の場を創出し、多くの人が集う、活力と賑わいのある地域を目指しています。

【取組概要と選定理由】

積丹地域では、多くの観光客がウニを目当てに訪れますが、毎年、大量のウニ殻が発生し、処理に苦慮していました。こうした中でウニ殻が、農地での肥料として有効であることに着目し、ウニ殻を施肥材として活用し、施肥材を染み込ませたロープを用いたコンブ養殖や生産されたコンブを餌にウニの実入り向上に取り組んでいます。本取組により、コンブの生産量の増加とともにウニの身入りも1.5倍に改善され、また生産額については1.5倍以上に増加しました。

この取組は令和3年には全国青年・女性漁業者交流大会で農林水産大臣賞の受賞をはじめ、令和4年には過疎地域持続的発展優良事例（総務省）において、磯焼けに悩む全国の漁業の手本となっていると評価され全国過疎地域連盟会長賞を受賞するなど、多数の表彰を受けており、地域の活性化に寄与しています。

この取組は、持続可能な漁業としてSDGsに関する模範となる取組であり、先駆性や取組体制に関して高く評価され、優良賞に選定されました。



ウニ殻施肥材の作成



ウニ殻施肥材設置箇所における海草繁茂状況

奨励賞

「砂原地域マリンビジョン協議会」

～ 地元小中学生への出前授業・漁業体験 ～

【協議会の概要】

「砂原地域マリンビジョン協議会」は、砂原産水産物のブランド化と次世代への継承並びに高次水産加工への展開、水産農産物組合せ製品の開発及びブルー・グリーンツーリズムの創出を掲げ、漁業と砂原地域に関心を抱くようなまちづくりを目指しています。

【取組概要と選定理由】

砂原地域は、ホタテガイ養殖とスケトウダラ漁を二大太宗漁業としており、漁業と水産加工業が盛んな水産業を中心とした地域です。近年、子供たちの魚離れが進んでいるため、魚とのふれあいや魚食文化などの普及を目的に砂原地区のさわら小学校や砂原中学校を対象に、出前授業や食育、マツカワ放流事業やホタテガイの耳釣り・刺網漁業の網外し体験等を実施しています。この取組は、児童・生徒に向けた後継者対策という側面のほか、若手の漁業者などが講師として参画することにより、漁業者のやりがいや資源管理の意識向上に寄与しています。

砂原漁協では令和4年度にふれあい体験室や見学スペースを備えた荷捌施設が完成し、新設された漁協施設の活用により、今後更に取組が強化されることが期待されるため、奨励賞に選定されました。



マツカワ放流事業



地元小学生に対する出前講座

奨励賞

「室蘭地域マリンビジョン協議会」

～ 室蘭漁協朝市の開催 ～

【協議会の概要】

「室蘭地域マリンビジョン協議会」は、規模や役割の異なる4つの地区が補完・連携しあい、水産業と人々の交流を通じた漁港と地域の一体的な活性化と地域水産業の振興を図ることを目指しています。

【取組概要と選定理由】

室蘭地域では、例年「室蘭さかなの港町同窓会」という漁港祭りが開催されてきましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、同イベントが中止となっており、室蘭産水産物のPRの場を失っていました。そこで、代替イベントとして室蘭漁業協同組合が令和4年11月に追直漁港内で「朝市」を初開催し、サケやアワビ、ホッキガイ等の新鮮な水産物を販売しました。ツイッターやインスタグラム等で事前告知を行ったところ、朝市当日は販売開始の2時間前から並ぶ来訪者もあり、販売開始時には150人近い行列となりました。大盛況の中、約2時間半で完売となり、室蘭産水産物の認知度の向上に寄与しました。

この取組はコロナ禍を踏まえて令和4年に新たに実施されたものであり、今後更に取組が強化されることが期待されるため、奨励賞に選定されました。



Instagramによる事前告知



朝市の実施状況